

地球惑星科学分野におけるポストドク問題の現状報告と改善に向けての提案

Postdoctoral issues in geoscience community: reports and propositions

日本地球惑星科学連合キャリア支援委員会 PD 問題セクション 栗田 敬 [1]

Kurita Kei JPGU Career Support Committee PD Section[1]

[1] -

[1] -

博士取得後のアカデミックキャリアのキャリアパスとしてポストドクなどいわゆる非正規雇用の流動研究員ポストが一般化しつつあります。ある大学での地球惑星科学の博士課程の例では博士取得後 8 割以上の人数が最近ではこのような職に就いているとの報告もあり、我々地球惑星科学分野でも研究を推進する重要な担い手となっています。非正規雇用の流動的研究員層は研究活動の活性化の軸として期待されている一方、研究者としてのキャリアパスの中での位置づけが不明で、その将来に大きな不安を残していることも認識されてきました。これは地球惑星科学分野に留まらず科学界一般の現象として、昨今大きな社会問題として取り上げられていることは周知の事実です。現在、非正規雇用の流動研究員ポストは急増し、かつその職務形態も多様化しているため、私たちがその全体像を把握するのが困難となっています。地球惑星科学の将来を考える上で、このような流動研究員層の役割は極めて重要ですが、この問題をめぐって現在展開されている議論の多くは個人的な体験や各人の周辺での個別的な印象で語られるものが多く、全体像の認識に立脚したものは殆どみられません。そのために「かみ合わない議論」に終わっているのが現状ではないでしょうか。地球惑星科学連合ではこの現状を深刻に受けとめ、地球惑星科学の将来像を真剣に議論するためにも流動研究員層の実態の把握が不可欠と判断し、調査を開始しました。実態調査は、各研究機関への問い合わせ調査（雇用側からの実数把握）、流動的研究員ポストに就いている人を対象にした聞き取り調査、研究教育活動におけるポストドクの役割調査、などです。本講演では、これらの調査の中間報告を行い、ポストドク当事者やシニアレベルのアドバイザーグループを含む幅広い層での議論を展開したいと考えています。